



# 栃木県公共事業再評価 概要書

## 【県土整備部 街路事業】

事業名	街路づくり事業
事業箇所	足利佐野都市計画道路 3・5・102号 家富町堀込線 中橋工区 <small>とおり</small> 足利市通2丁目～ <small>みなみちょう</small> 南町 L=644m
事業主体	栃木県
事業担当課	県土整備部 都市整備課

# I 事業の概要

## 【現況】

目標事業期間 (変更前)	令和 3 年度～令和 9 年度 (令和 3 年度～令和 9 年度)									
事業経過	令和 3 年度 事業化 令和 3 年度 用地取得着手 令和 4 年度 工事着手									
全体事業費 [うち用地補償費]	210.0 (107.0) 億円 [ 16.0 ( 4.0) 億円] ※ ( ) は前回計画時									
事業延長 [うち整備済延長]	L = 644m [ L = 0m]									
進捗率	基準年次：【令和 7 年度末時点】 <table><tr><td></td><td>費用</td><td>進捗率</td></tr><tr><td>既投資事業費</td><td>81.1億円</td><td>39%</td></tr><tr><td>[うち用地補償費</td><td>12.8億円</td><td>81%]</td></tr></table>		費用	進捗率	既投資事業費	81.1億円	39%	[うち用地補償費	12.8億円	81%]
	費用	進捗率								
既投資事業費	81.1億円	39%								
[うち用地補償費	12.8億円	81%]								

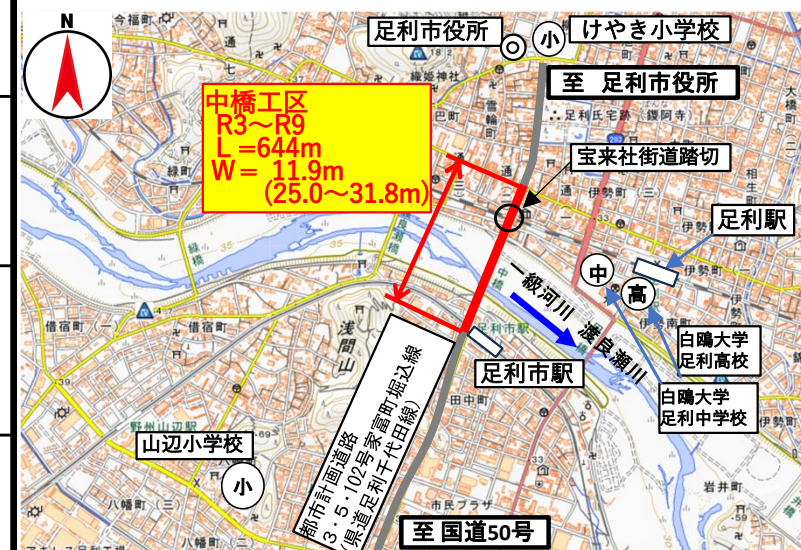
## 【目的】

都市計画道路3・5・102号家富町堀込線は、足利市の南北市街地を結ぶシンボル軸として、都市の骨格を形成する重要な幹線道路であり、渡良瀬川に架かる中橋の三連アーチは市民に親しまれ、魅力ある景観を創出している。

本事業区間は、中橋付近において渡良瀬川の堤防高が不足しており、重要水防箇所位置付けられている。さらに、朝夕を中心にJR両毛線を横断する宝来社街道踏切の前後で交通渋滞が発生しているほか、踏切部には歩道がなく、歩行者・自転車の安全確保が課題となっている。

このため、堤防嵩上げと併せて、足利のシンボルである三連アーチを継承しつつ、国・県・市が連携して中橋の架替えを実施するとともに、JR両毛線横断部を立体化することにより、道路利用者の安全確保と渋滞緩和による交通の円滑化を図るものである。

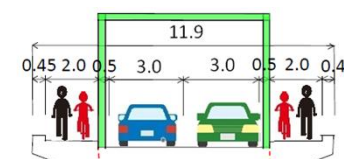
## 【事業概要図】



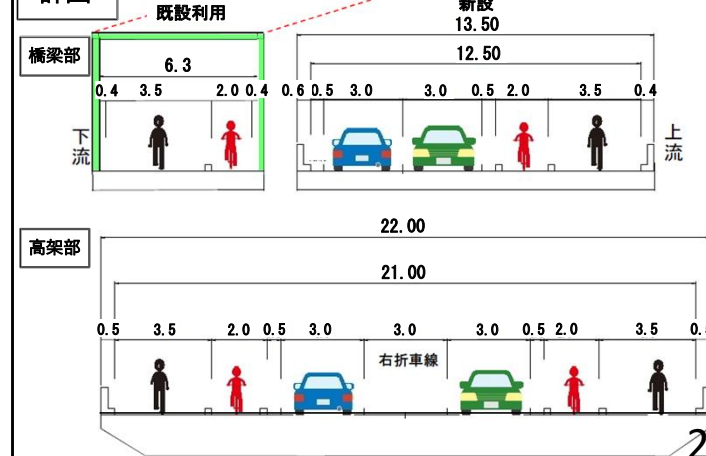
出典：国土地理院ウェブサイト (<https://maps.gsi.go.jp/>)

## 【標準横断図】

### 現況

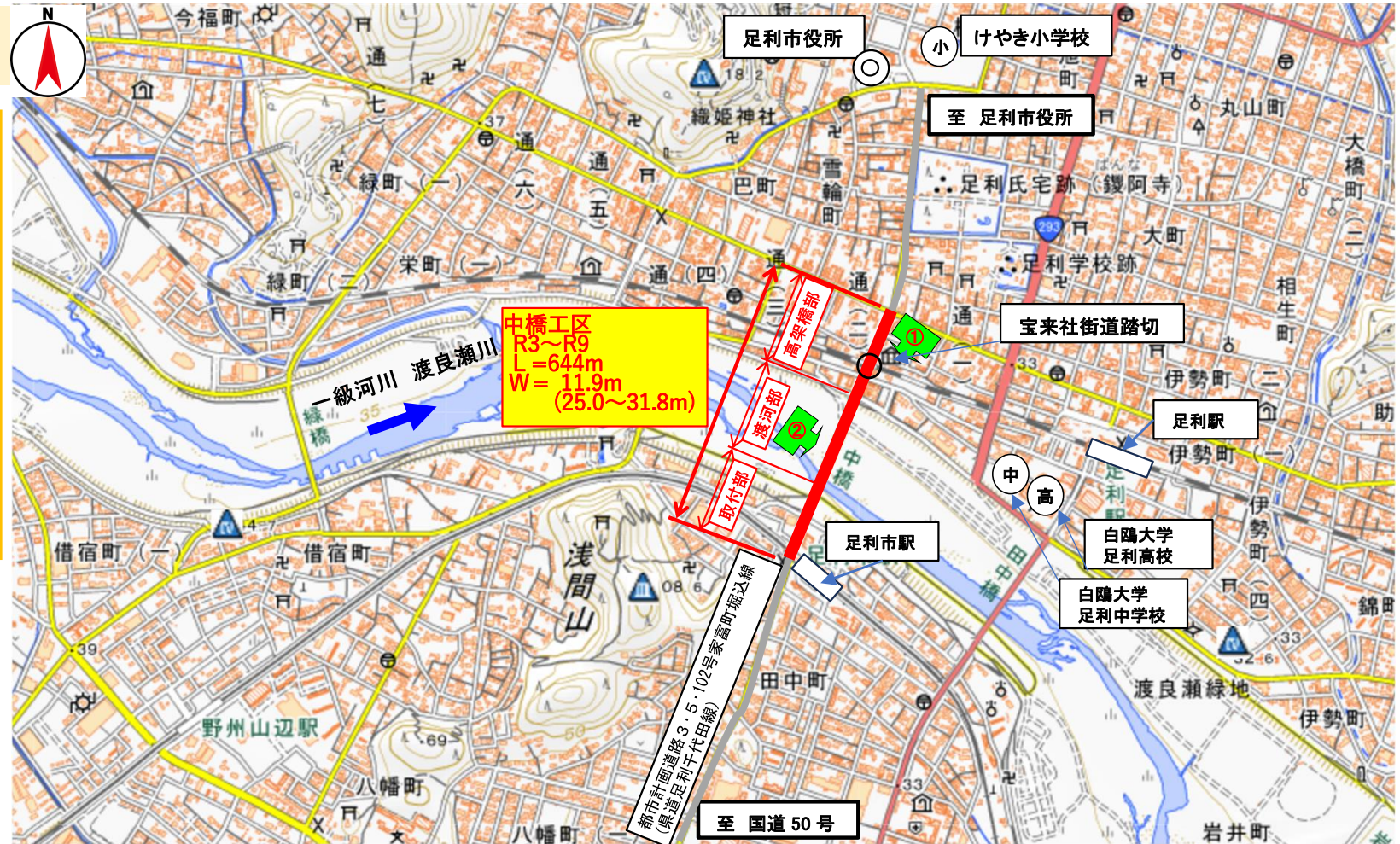


### 計画



# I 事業の概要

## 【箇所の概要】



凡例	
事業箇所	<span style="background-color: red; width: 20px; height: 10px; display: inline-block;"></span>
緊急輸送道路	<span style="background-color: gray; width: 20px; height: 10px; display: inline-block;"></span>



## Ⅱ 事業の評価

### 【今後の事業進捗の見込み】

・ 事業期間の見直し  
令和9年度 ⇒ 令和9年度

・ 総事業費の見直し  
107.0億円 ⇒ 210.0億円

### 【全体事業費の見直し】

前回計画  
(R2年度)

今回計画

	事業費	107.0億円 ⇒ 210.0億円 (+ 103億円)
内	工事費	103.0億円 ⇒ 194.0億円 (+ 91億円)
訳	用地補償費	4.0億円 ⇒ 16.0億円 (+ 12億円)

### 【事業の投資効果】

#### 1 費用対効果分析結果

	B/C	総便益(B)	総費用(C)
(1)事業全体	1.2	104.1	84.4
(2)残事業	3.1	104.1	33.7

#### 2 事業の整備効果等

- ・ 堤防嵩上げにより治水安全度の向上を図り、地域住民の安心・安全な生活環境が確保される。
- ・ 主要交差点への右折車線設置およびJR両毛線交差部の立体化による踏切除却を図ることで、中心市街地における円滑な交通が確保される。
- ・ 歩道および自転車道の整備により、歩行者・自転車の安全な通行が確保される。
- ・ 足利市のシンボルである三連アーチを後世に継承し、良好なまちなみ景観の創出を図る。

# II 事業の評価

## 【事業の進捗状況等】

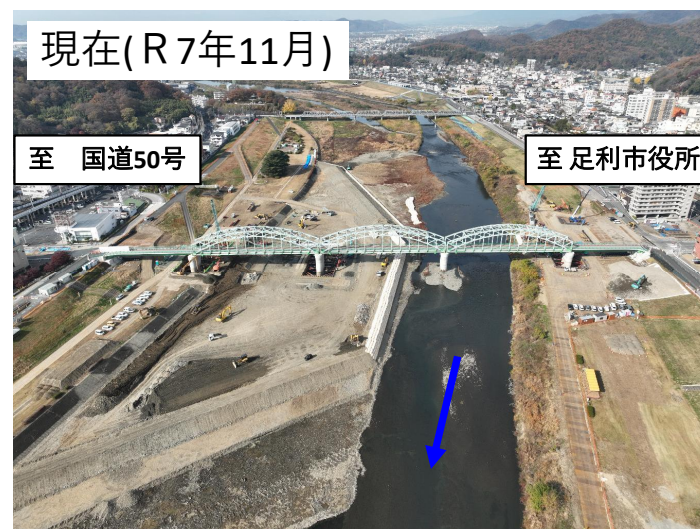
※令和7年度末時点

### 1 事業の進捗状況

全体事業進捗率	39%
用地	81%
工事	35%

### 2 今後の事業進捗の見込み

- ・用地取得、工事を推進し、令和9年度を目標に事業完了を図る。



## 【コスト縮減等】

### 1 コスト縮減方策

- ・再生材の利用や建設発生土の公共工事間流用に努め、コスト縮減を図る。

### 2 代替案立案等の可能性

- ・81%の用地補償を実施済みであり、主要構造物の工事にも着手していることから、引き続き現計画で事業を継続することが妥当と考える。

## 【事業の対応方針（案）】

- ・本計画で事業を継続する。